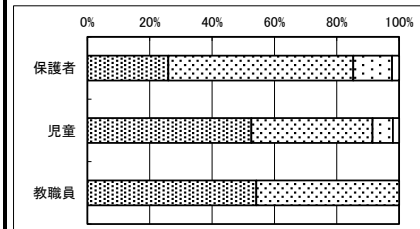


■ 4－そう思う ■ 3－どちらかといえば、そう思う ■ 2－どちらかといえば、そう思わない □ 1－そう思わない

学校教育目標

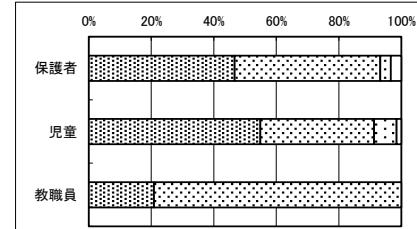
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



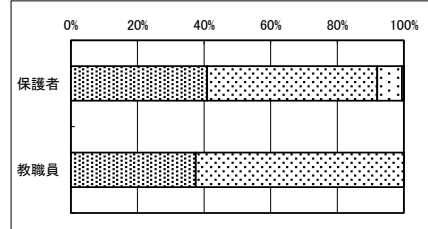
2 意欲的な学校生活

子どもは、充実した学校生活を送っていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。



【1項】昨年度と同様、保護者・児童・教職員ともに肯定率（「4」及び「3」と回答した合計の割合）が80%を超える結果となった。「もっと〇〇したい」という意欲は人を成長させる源であり、今後とも「探求・挑戦・失敗・成功」の体験を通して生きる力を身に付ける教育を展開していく。

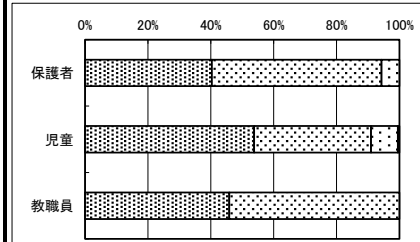
【2項】保護者・児童・教職員ともに肯定率が90%を超える結果であったが、コロナ禍にあり行動が制限されてしまう状況が長く続いているためか、「4」と回答した児童は9ポイント（以下ポイントとはPと表す）、教職員は11P減少していた。熊本県学力・学習状況調査のi-checkからは（以下、i-checkと表す）、児童の主体性が育まれているようすが窺えるので、認め・ほめ・励まし・伸ばしながら授業や特別活動の更なる質の向上に取り組む、活気や支持的風土にあふれた学校・学級経営を行ってきたい。

【3項】保護者と教職員の回答がほぼ同じで、保護者や教職員の肯定率は90%を超える結果となった。ただし、教職員は「4」と回答した割合が16P減、「3」と回答した割合が20P増であった。互いの長所を生かし短所を補い合いながら組織として対応できるチーム千小を目指していく。

教科指導について

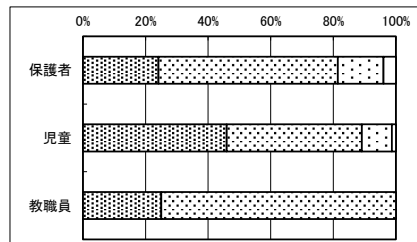
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、丁寧な授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



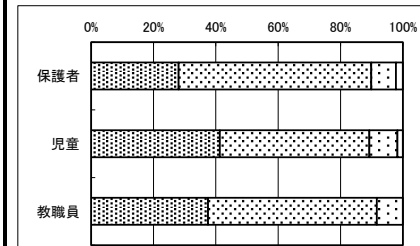
【4項】児童、保護者、教職員ともに昨年度とほぼ同様の結果であった。校内研修では当事者意識を高める取組を工夫してきた。授業に関する情報交換を行う姿が日常的に見られている。保護者や児童の6～10%が「1」や「2」と回答していることから、誰一人取り残さない学びの保障を実現するために、県学力・学習状況調査における個人の経年変化を把握し一人一人の課題克服に向けて適切なアドバイスを行うとともに、教師の授業力向上を目指していきたい。

【5項】保護者、児童は昨年度とほぼ同様の結果であった。教職員については「4」の割合が6P向上していた。i-checkにおける主体性に関する項目の肯定率が昨年度よりも向上しており、学びの質が向上しているようすが現れ始めている。異なる意見から学び合うことのできる授業を展開し、さらなる質の向上を目指したい。

道徳教育 心の教育について

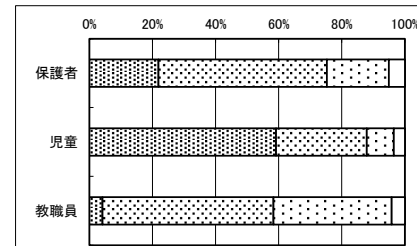
6 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に努めていると思いますか。



7 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。



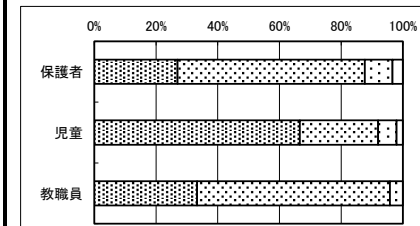
【6項】保護者、児童は、昨年度とほぼ同様の結果であった。教職員は、「4」と回答した割合が昨年度と比べ5P下がっていた。学級の支持的風土に関するi-checkの項目には、思いやりを持って級友に声かけをしているようすが表れていた。数値だけにとらわれず、一人一人の児童の豊かな心を育成していくためにも、さらに教育活動全体を通して心の教育の充実に取り組んでいきたい。

【7項】保護者、児童、教職員ともに、昨年度とほぼ同様の結果であった。他の質問項目と比べて肯定率が低いことが特徴である。児童はあいさつをしていると自分では思っているものの、声小さかったり表情が乏しかったりして、うまく相手に伝わっていないようすが窺える。家庭・学校・地域が一体となって認め、ほめながら、気持ちのよいあいさつができる児童を育てていきたい。

人権教育について

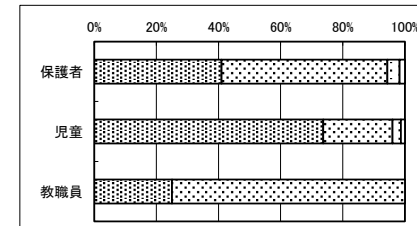
8 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



9 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



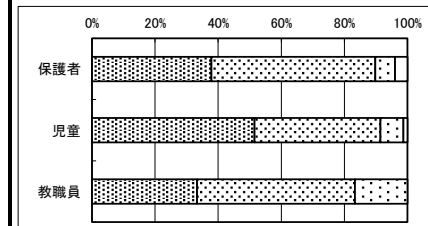
【8項】昨年度と比べ、「4」と回答した保護者は4P増えていたが、児童は8P、教職員は11P減少した結果となった。ただし、「3」と回答した割合は増えたので肯定率はほぼ同じであった。「2」と回答した児童が6%、「1」と回答した児童が2%在籍していることを見逃さず、「子供の『探求・挑戦・失敗・成功』の体験を勧め支える教職員」集団になりえているか教師自ら振り返りを行うとともに、各種アンケートやi-checkの個人票から児童一人一人の回答のようすが把握し適切な声かけを行ったり、保護者と連携したりしながら一人一人を大切にしている指導の充実に努めていきたい。

【9項】保護者、児童は昨年度とほぼ同様の結果であった。教職員は、「4」と回答した割合が11P下がっていた。ただし「3」と回答した割合が11P増えていた。道徳教育や人権学習の充実に努めながら、さらに自分や他人を大切にしている心の育成していきたい。また、SNS上でのコミュニケーションの在り方に関する指導の充実に保護者とともに推進していきたい。

学校行事について

10 学校行事への参加と工夫

学校では、学校行事が工夫されていると思いますか。

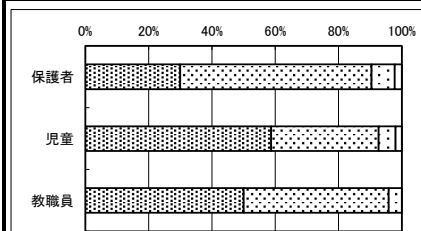


【10項】昨年度と比べ肯定率は、児童、保護者、教職員ともに昨年度とほぼ同様の結果であった。ただし、「4」と回答した保護者は11P、教職員は7P増えていたものの、児童の回答は13ポイント下降していた。コロナ禍の影響から活動ができなかった時期にアンケートを取ったことに関係があると思われるが、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを参照しながら、さらに行事の工夫を行ってきたい。

生徒指導 教育相談について

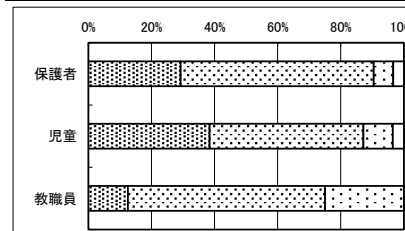
11 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



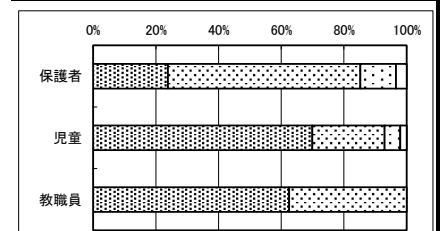
12 規範意識

子どもは、規則やマナーを守っていると思いますか。



13 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



【11項】保護者、児童、教職員ともに肯定率が90%を超えた結果となった。「4」と回答した保護者の割合は5P増加していた。児童については「4」と回答した者が10P減少し、「3」と回答した児童が12P増えていた。働き方改革を推進する等の対策を講じることにより、子どもと向き合う時間を十分確保することに努め、これまで以上に児童理解に取り組んでいきたい。

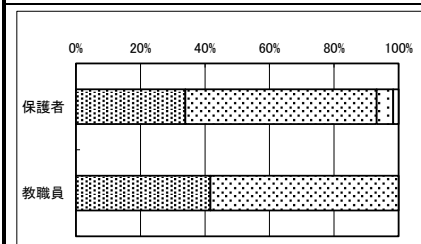
【12項】質問11と同様に、保護者、児童、教職員とも昨年度とほぼ同様の結果だったが、「4」と回答した児童の割合が11P減少していた。また、教職員が「3」と回答した割合が6P増えていた。規範意識が低いといじめ問題等の発生にもつながるものと考え、自ら規則を守ろうとする態度と実践力の育成に取り組む、安心して学校生活を送ることのできる学校づくりを推進していきたい。

【13項】質問11と同様に、保護者、児童、教職員とも昨年度とほぼ同様の結果だったが、「4」と回答した児童の割合が7P、教職員の割合が5P減少していた。保護者の肯定率は85%、児童の肯定率は93%あるが、「1」や「2」と回答している保護者や児童の存在を見逃さず、より一層信頼が得られるよう、いじめ問題等へのアンテナを高めて未然防止に努め、問題があった場合迅速に保護者と教職員が連携して解消に向けた取組を行っていく。

健康教育 安全について

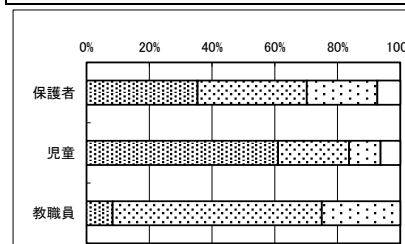
14 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



15 体力向上

子どもは、すすんでスポーツなどをしていると思いますか。



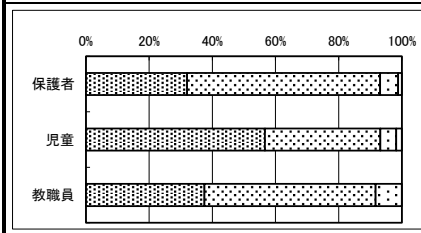
【14項】保護者の肯定率は93%で昨年度とほぼ同様の回答状況であった。「4」と回答した教職員は12P減、「3」と回答した教職員は12P増で、肯定率は同じであった。登校班について保護者から相談があったときには、連携して迅速に課題に対応してきた。今後とも安全教育と安全管理の面から取組内容の見直しを図り、危機意識を高め、組織全体で安全と事故防止に努めていきたい。

【15項】保護者、児童、教職員とも昨年度とほぼ同様の結果だったが、「4」と回答した教職員は7P減少していた。児童の肯定率は80%を超えているが、保護者や教職員の回答からは、運動不足を感じているようすが窺える。コロナウイルス感染症拡大防止のため、運動が制限されることが多いが、進んでスポーツ等に取り組む意識と環境づくりを家庭と連携して学校全体ですめる必要がある。

学校環境について

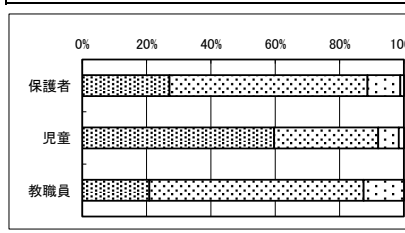
16 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



17 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。



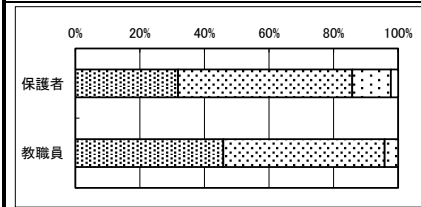
【16項】保護者、児童、教職員の肯定率は昨年度と同様、いずれも90%を超えた結果となった。なお、「4」と回答した割合は、保護者7P減、児童5P減。教職員16P増であった。花壇は体験学習のために美しさだけではなく十分収穫もできるよう整備している。掲示物については、児童の認め、ほめるために十分機能していると考え、主体性を伸ばす観点からも工夫できる点がないか見直しをしていきたい。

【17項】16項と同様に、保護者、児童、教職員の肯定率は、いずれも90%を超えているが、「4」と回答した保護者や教職員の割合が児童よりも低い点には留意しておきたい。子供たちの安全を守るためには、より厳しい目で複数の職員により点検していく必要がある。今後とも教育委員会等に要望しながら、より一層施設・設備の充実を図ってきたい。

情報の公開・発信について

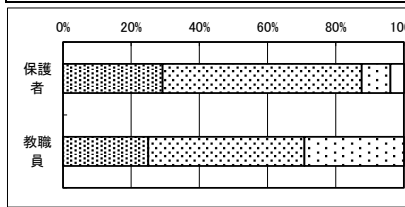
18 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書、ホームページ等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



19 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業参観等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。



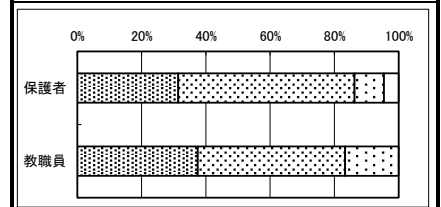
【18項】保護者、教職員ともに昨年度とほぼ同様の結果であった。なお、「4」と回答した割合が3Pずつ増えていた。ホームページのトップページの改訂を行ったり、紙文書での配付を極力避けて、安心・安全メールを使って情報提供したりするように取り組んだ。今後とも工夫・改善しながら、保護者のニーズに応えることができるような情報発信に取り組んでいきたい。

【19項】保護者の回答状況は、昨年とほぼ同様の結果となった。教職員については、「4」が10P、「3」が19P減り、昨年度は0%であった「2」の回答が29P増えた結果となった。教職員の回答には、保護者来校による取組が十分実現できなかったことを反映しているものと思われる。

家庭・地域の連携について

20 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



【20項】保護者は昨年度と同様の結果であった。教職員は、「4」と回答した割合が7P増えたものの、「3」と回答した割合は19P減少していた。コロナ禍の影響からPTA活動や地域協働活動が実施しにくい状況にあることがその要因だと思われるが、児童のよりよい成長のためにより一層連携を深めていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- ・日常的に授業力と指導力の向上を図るとともに、タブレットの有効活用等を図りながら個に応じた指導の充実を目指す。（子どもの主体性を光らせ、やる気を応援することにより、学ぶ意味を問いつながりながら能動的に学び続ける児童の育成を目指す）
- ・学校からの各種の便りの充実（デジタル化を含む）と、地域や保護者が参加しやすい学校公開のあり方を工夫していく。（学校便り・ホームページ・学級・学年・学校・図書・給食・保健等便りの充実・発行、授業参観・懇談会の工夫）
- ・児童の実態を把握し、組織体として、いじめや不登校の未然防止・早期解消に努める。（職員の共通理解、生活アンケートや教育相談の充実、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の活用推進）
- ・日常生活での体を動かす機会を意図的につくり、子どもが進んでスポーツを楽しむ環境づくりに取り組む。
- ・地域や保護者と連携して、子どもたちの規範意識や公德心の高揚を図るための指導の工夫と実践に努める。（やつしろスピリッツの推進、道徳教育・人権教育・特別支援教育・日常的生徒指導の充実）
- ・い草子すくすく協議会等との連携を図りながら、家庭、地域と学校が一体となった学校づくりに取り組む。

